

理事長からの学会外部の皆様へのお知らせ

本学会活動に関する Web 報道についての追加説明

令和3年1月15日に私から本学会会員に発した「大江戸線運転士の新型コロナウイルス集団感染の感染源」についての報道に関するお知らせが学会外部にも広がり、一部混乱を招いているようですので、私から学会外部の皆様へ直接説明させていただきます。私から本文の最後の頁に添付した文書を学会のメーリングリストを通じて会員にお知らせしたことは事実です。お知らせの内容を精読していただければご理解いただけるように、1月14日付けで報道された「大江戸線運転士の新型コロナウイルス集団感染の感染源」についての記事がミスリードを招いている点を指摘し、会員に注意喚起したものです。しかしその一方で、このミスリードを指摘する新たな Web ニュースが報道されたことから、私からのお知らせが「水道の蛇口が感染源である可能性」を完全に否定していたかのように受け取られる方が少なからずおられるようですが、その理解は正しくありません。左に行きすぎた考えを是正しようとして、右寄りの修正を掛けたつもりでしたが、それが逆の意味のミスリードとなって右に行きすぎた考えを持たれる方がおられたとすれば、それは私を含めて本学会の本意ではありません。すなわち、現時点ではグレーとしか言いようがないということです。専門家として白黒の決着を付けて欲しいという皆様のご要望は理解しますが、新型コロナウイルス感染症については、未だ十分な根拠が出そろっていないことをご理解いただき、冷静な対応をお願いできればと思います。

また、折角の機会ですので、今回の件ならびに本学会の働きについてももう少し詳しく説明したいと思いますので、お時間の許す方はお付き合いください。

上記追加説明に関する補足

上記の通り、先の報道には感染源を特定できるような根拠は何処にもなく、幾つか考えられる可能性が保健所から指摘されただけです。ところが、その可能性の一つの「唾液で汚染された水道の蛇口」が感染源として特定されたかのような記事が世間を飛び回っていることに危惧を感じ、その事実を会員にお知らせして冷静な対応をお願いしました。しかし、会員へのお知らせにも「可能性としていることからかならずしも間違いではない」と記しているように、本学会においても可能性がないと結論している訳ではありません。学校や職場で歯磨きをされる際には、唾液で汚染した蛇口のハンドルはその後使用される人のため十分に石けん等で洗浄し、手洗いが終わった手でハンドルを閉めるなどの注意を払うことをお勧めします。また、集団での歯磨きは密にならないように時間を予め区分して、時間をずらして行っていただくことが大切です。また、歯磨きは唇を閉じて行うことができますので、特に家庭の外で歯磨きを行う際には歯磨きによって飛沫が飛び散らないように注意を払ってください。詳細についてはかかりつけの歯科医院で歯磨きの仕方について相談されることをお勧めします。また、園や学校でフッ化物洗口を行う際には、学会 HP の意見・回答の欄にある「新型コロナウイルス緊急事態宣言下における集団フッ化物洗口の実施について」(http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/statement/file/statement_20200420.pdf)を参考にして行

っていただければと思います。

新型コロナウイルス感染の不確定要素

たしかに、唾液中に新型コロナウイルスは存在しており、当初 The New York Times の報道では歯科医療関係者の感染リスクが極めて高いとの報道がありました。これを受けて、不要不急の歯科治療を控えるような要請もありました。しかし、実際には我が国の歯科医療での感染クラスターの発生の報告はなく、本学会 HP

(http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/news/2020/file/news_200817.pdf) に示すように、我々が調査しても歯科医師の感染リスクは一般市民に比べて、特に高くはありませんでした。

歯科医療ではかつて HIV (エイズウイルス) 感染の危機が叫ばれて以来、感染防御に十分な配慮がなされ、スタンダードプリコーション (標準予防措置) と呼ばれる感染予防対策が採られるようになったことが感染防御に大きく働いていると思われまふ。しかし、ヒトレベルでの唾液を介した感染の実態は未だ十分に解明されていません。右往左往する政府の感染対策について批判の声も聞きますが、真実を見つけることが難しいことを国民が理解することも大切だと思ひます。

日本口腔衛生学会の活動目的

今回の、私からの会員へのお知らせの学会外部への拡散を受けて、「日本口腔衛生学会がブチ切れ、ただでさえ受診者が減っているのに、こんな風説流布されて黙ってはいられないだろう。」と言うネットの声もありましたが、本学会の活動目的が世の皆様にも正しく伝わっていないことを残念に思ひました。本学会は歯科医師を中心として構成されていますが、学会の設立の目的は「国民の口腔保健の維持と向上」であり、口腔疾患の予防を介して歯科の治療が減ることはある意味で本学会の目指すところではあります。本学会では「健康な歯とともに健やかに生きる-生涯 28 (ニイハチ)」

(http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/statement/file/statement_20180518.pdf) を学会声明として掲げて、公衆歯科衛生や予防歯科の充実を図ることで、口腔の健康の維持増進を通して国民が幸せな人生を全うできる社会の創設に向けた高い志をもって活動を行っています。

今回の新型コロナウイルス感染症問題で、健康と経済が極めて密接に関係しており、そのバランスを取る難しさを肌で感じられたと思ひます。右肩上がりの国民医療費は平成 30 年度には 43 兆円を超しており、今後も青天井で上昇することが予想されています。医療技術の革新は我々に福音をもたらす反面、年々高度化する医療技術を遍く国民に届けるには莫大な医療費が必要になります。これは、今回のコロナ感染症の問題とは次元が異なりますが、健康と経済のバランスを取る難しさの点では同じであり、その拮抗する両者の難しいバランスを取り、社会の持続可能性を保つためには、保健政策による健康の維持・増進が重要でふ。口腔の健康が少なからず全身の健康に関連することは多くの科学的根拠が示すところではあります。さらに、人生を豊かに過ごすためには、人として生きる上で不可欠な「食べる・話す・味わう」といった健康な口腔の機能がいかにか大切かは自ずとご理解いただけるのではないでふでしょうか。最後に日本歯科医学会 HP (四百字の唄) に掲載されている健康を保つ大切さへの私の思ひを下記に転

載します。この思いを通して本学会の理念をご理解いただければ幸甚です。

四百字の唄

先日福岡市で開催された、地元出身の写真家石川賢治氏の「宙（そら）の月光浴」と題した作品展を訪れた。暗闇の時と思いついていた日没の後も、月光の柔らかな明かりが地球上の様々な場で無限の命を優しく包んでいることを改めて気づかされた。昼間の眩い陽射しには比べようもない儂さである。しかし、地球上の数多くの命の営みにはその微弱な月明かりに生かされているものも少なくないことに思いを馳せると、常日頃のものの見方は豪華さや煌びやかさに目を奪われた短絡的なものを感じる。

これを健康に置き換えてみると、痛みや不快から我々を解放させてくれる「医療」は陽の光であり、変化を感じさせない地道な「保健」は慎ましやかな月光浴のようである。陽の光は鮮烈で我々はその強さに惹かれるが、時にその強い日差しは我々を焦がしかねない。写真展の月光浴の世界に触れ、奥深く和やかな月影も陽光に劣らず命の営みに不可欠なものと思われた。

一般社団法人日本口腔衛生学会
会員 各位

新型コロナ感染の拡大で新年の幕開を迎え、大変な時期となっておりますが、皆様お元気で過ごしてはいかがでしょうか。

さて、昨日今日と、地下鉄大江戸線の運転士 39 人に「歯磨きの際の唾液が付着した手で蛇口を触れたことにより、感染が広まった可能性が高い」との報道が日本中に広まり、本学会会員におかれましても、学校保健や産業保健の歯科保健指導で頭を痛めておられるのではないかと心配しております。報道によれば、保健所からの指摘ということでしたので、保健所がどのような根拠に基づいてこのような結論を下したのか不思議に思い、保健所に聞き取り調査を行うため報道を行った新聞社に正確な保健所名を尋ねてみますと、分からないとのことでした。それでは事実確認ができないではないかと指摘したところ、この情報元は東京都交通局の広報担当であるので、東京都交通局に尋ねて欲しいとのことでした。そこで、東京都交通局の広報担当者に連絡を取り、調査にあたった保健所名を尋ねたところ、保健所は江東区保健所とのことでしたが、保健所は単に聞き取り調査を行っただけで、感染源についての具体的検査等を何も行ってはいないことが分かりました。

東京都交通局の広報担当者は報道機関の個別取材において、保健所から指摘された飲食を含む様々な感染の可能性を報告したそうですが、歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口もその可能性の一つであったとのこと（蛇口を素手で触れず、できればセンサー式が良いとのアドバイスを受けた程度）。しかし、いざ記事になると目新しい「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が切り取られ、あたかも「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が感染源であったと断定されたかのような記事が飛び回っています。たしかに「歯磨きの際に唾液に汚染された蛇口」が感染源の一つであった可能性を否定する根拠はありませんが、記事の内容は必ずしも個別取材の内容を正確に反映していないことを東京都交通局の広報担当の方から聞き取ることができました。記事をよく読めば可能性と書いているので、誤報とまでは言えませんが、他の可能性を敢えて言及していない点に問題がありそうです。また、この手の記事では見出しに惑わされることが多いようです。

何が事実かということは結局分かりませんが、マスコミ報道に振り回されず、事実を見極める目が大切であることをお伝えします。

本年が会員の皆様にとって良い年であることをお祈りしております。

日本口腔衛生学会
理事長 山下喜久

注意： 本文は 1 月 15 日に会員に配布したお知らせについて、正確性を期すため東京都交通局広報担当者の確認をいただき修正した後に、1 月 22 日再配布した訂正版ですが、主旨については 1 月 15 日に配布したものと大きくは異なっていません。